

## 終戦前の京都

平松 妙子

(堺市西区鳳中町)

昭和20年(1945年)、私は  
小学校(当時は国民学校)5年生  
でした。

- 荒縄を大黒柱に巻きて曳き人等馴染みの家毀ちたり
- 5時集合の必勝祈願の朝詣り
- 憲兵の車が人を轢しくも見き教練帰りの学童われら憲兵!!軍事警察という人が国民を監視していました。非国民といふレッテルを貼つては国民を罰していました。教練は竹の槍で人を殺す練習でした。
- 教科書を開くことなく過ぎゆきし1日3度の空襲警報
- 空襲の類焼防止を指示されし御池通りの強制疎開狭い街は火災の原因です。通りを強制的に引っ越しさせました。3ヶ月でその街は空っぽになりました。誰も反対できなかつたのでした。

## 寄稿 私の戦争体験 <23>

戦争体験手記募集を見て、お寄せいただいた手記を順次掲載しています。

現代のような機械はなにもありません。奉仕の人達が「お国のために」と家を毀しました。画家さんの玄関にあつた可愛いい朱色の花咲く柘榴の木もあつとう間にへし折られました。

● 降伏勧告の

ビラ撒く米軍艦載機

なす術もなく見上げておりぬ

「ホンノミナサン、アナタガタワ日本の軍閥にダメサレティマス」漫画とともに書いたチラシが小型機から撒かれました。小学生達はそれを集めて学校へ持つて行きました。一枚でも家に残したら「銃殺」という言葉も聞きました。「銃殺」、狂気の言葉と思いませんか?

● 新聞の

ページ一杯に写りし

「新型爆弾」被爆の少女

私と同年代の少女が紙面一杯に写っていました。顔は額から剥げた皮膚が頸に、腕は振袖の様に垂れ下がっていました。新型爆弾と呼ばれていた。これが後の原子弹である。

● 全身の

皮膚の剥がれて垂れ下がる被爆少女の立つ夏の雲

夏のギラギラとした空を見上げる時、私は決まつてあの時の少女を思い出します。

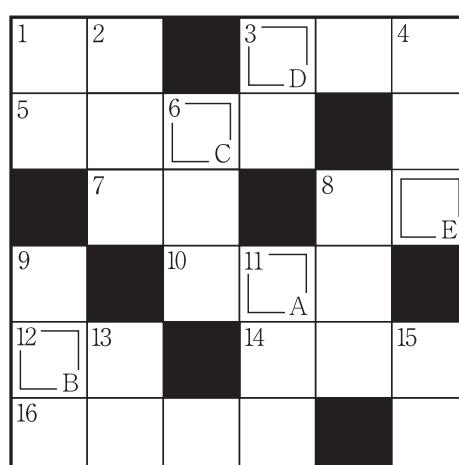
これは京都の終戦前のお話です。

\* ● は短歌です

○お詫びとも9月号「私の戦争体験」鍋島孝之介さんの中でも「鉄のつぶつぶて」と記載していましたが、正しくは「紙のつぶて」です。お詫びして訂正いたします



力ギを解き、二重ワクに入る文字をABC順に並べてできる言葉は何?



## お楽しみクイズ

### クロスワードパズル

● 応募方法/郵便ハガキにクイズの答え・住所・氏名・年齢・電話番号  
・ 友の会に対するご意見等を記入のうえ、  
● あて先/〒590-0821 堺市堺区大仙西町6丁184-2  
友の会事務局「お楽しみクイズ」係あてにご郵送ください。  
● しめきり/2018年11月14日(水)消印有効  
● 当選発表/厳正なる抽選の上、10人のかたに賞品(図書カード500円分)を。賞品の発送をもって発表に替えていただきます。  
● クロスワードパズル解答はがきに書かれた「ご意見」は、紙面に掲載させていただことがあります。ご了承ください。

川柳  
ひと目惚れ身振りあでやか風の盆  
蝉の声哀れを秘めて鳴きたけり  
秋祭りの太鼓の稽古鳴り響く  
自転車で転倒して感動しました。  
ひと目惚れ身振りあでやか風の盆  
蝉の声哀れを秘めて鳴きたけり  
秋祭りの太鼓の稽古鳴り響く  
色々お米で絵を描いていました。

山本 直美  
長谷川良雄  
宮崎金次郎  
奥田 君江

\* 句を詠む時の情景や思いをお寄せください。  
特に、俳句・短歌・川柳の次回締め切りは、2018年11月14日(水)です。  
詳しくは、お詫びして訂正いたします。

## 第8回 耳原高石友の会まつり

日時 10月21日(日)  
10:30~13:30  
場所 耳原高石診療所1F・駐車場

### ☆健康チェックコーナー

- ・身長・体重・血圧・体脂肪・歯科検診
- ・血液さらさらチェック・骨密度測定

### ☆模擬店

- ・たまごせんべい・ミニうどん・チヂミなど多彩に
- ・バザー・古着コーナー・根物野菜販売他
- ・スーパー・ボーラー・輪投げなど

### ☆福引抽選会(1等1万円ギフト券が当る!)

13時から1階待合室で

・当日は駐車場はありませんのでご了承下さい

主催 耳原高石診療所  
健康友の会みみはら高石ブロック支部協議会

「歩くことも難しいですが、文字にすることが困難なので、ぜひ戦争体験を聞いていたことがきっかけです。

「歩くことも難しいですが、文字にすることが困難なので、ぜひ戦争体験を聞いてほほしい」と事務局へ1本の電話がかかり、8月中旬訪問させていただき、汐見さんの壮絶な戦争

汐見さんは、1919年1月30年生まれ。現在99歳で、年が明けて来年には100歳を迎えられます。

今回お邪魔したのは、健



会員紹介  
さん  
東西支部  
しおみやすこさん  
汐見弥寿子さん

体験をお聞きしました(汐見さんの「私の戦争体験」は後日掲載します)。汐見さんは東京と堺の2都市で空襲に遭遇されています。

汐見さんは言います。「戦争さえなければこんな悲惨なことはなならないなかつた。恨みます。昔、若い方々に戦争のお話をすると『戦争のことは知らない』と言われました。私は日本人みんなが知っていると思っていました。これは早く伝えないといけないと思いました。私は日本人みんなと一緒に生きてきた方たちは少なくなり、話せる間には話さなくなあかんと感じています」と。

最後に「スーパー・コンビニ等で残った食料を捨てる」と良く聞きます。私には考えられないし、戦争を経験した方はそう感じていると思いますよ。若い人はもっと戦争のことを真剣に考えてほしいと思いますよ。若い人は考えてほしいと思いますよ。若い人は考へた方はそう感じていると、強く語られました。(文・写真 機関紙編集部)